

クラブ大会試合結果一覧

部活動Report
2026年2月～2026年6月

陸上競技部

4月	第80回愛知県高等学校総合体育大会西三河予選 男子総合優勝(トラック2位・フィールド1位) 女子総合優勝(トラック1位・フィールド1位) 男子22名 女子20名 計42名(個人種目のべ58種目、リレー4種目で愛知県総体に出場)	
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会 男子総合2位・女子総合2位 東海大会出場者(個人26名のべ22種目、リレー4種目) ※()の競技は東海大会対象外 山口暁士(3年大高) 男子砲丸投 1位・ハンマー投 1位・円盤投 3位 石川大介(3年平坂) 男子走高跳 1位・三段跳 5位 杉浦丞真(3年西尾東部) 男子やり投 1位・男子八種競技 1位 夏目純佳(3年矢作北) 女子走高跳 1位・七種競技 1位・三段跳 2位 片桐舞(3年大高) 女子砲丸投 1位・女子円盤投 2位・(ハンマー投) 矢嶋紗由菜(3年桜山) 女子100mH 1位・(200m) 権田颯志(3年翔南) 男子110mH 2位 杉浦崇義(2年六ツ美) 男子400mH 2位・(110mH) 内藤樹(3年扇台) 男子400m 3位・(200m) 松本実々(1年安城南) 女子400m 3位 近藤羽留(2年滝ノ水) 女子砲丸投 3位・(円盤投・ハンマー投) 奥山莉奈(3年東山) 女子400mH 4位・(走幅跳) 八木花絵(2年大高) 女子ハンマー投 4位・砲丸投6位・(円盤投) 村田真優(2年前林) 女子400mH 5位・(100mH) 男子4x100mR 5位 水鳥結斗(2年西尾)・山本拳矢(2年安城北)・瀬戸涼平(2年篠目)・権田颯志(3年翔南) 男子4x400mR 2位 瀬戸涼平(2年篠目)・杉浦崇義(2年六ツ美)・内藤樹(3年扇台)・佐藤大寛(3年桜井) 女子4x100mR 2位 奥山莉奈(3年東山)・池上陽菜子(3年朝日丘)・矢嶋紗由菜(3年桜山)・樋口紗都(2年浄水) 女子4x400mR 2位 奥山莉奈(3年東山)・松本実々(1年安城南)・池上陽菜子(3年朝日丘)・矢嶋紗由菜(3年桜山) その他愛知県総体出場者 大嶋友博(3年大府) 400m、佐藤大寛(3年桜井) 400m、 笠井一磨(3年翔南) 400mH、桑野智洋(2年武豊) 砲丸投・円盤投・ハンマー投、 山本拳矢(2年安城北) 100m、北村惟史(2年守山) ハンマー投、 瀬戸涼平(2年篠目) 走幅跳、野田雄斗(2年宮田) 走幅跳・三段跳、 中野慶太郎(2年有松) 走高跳、瀬川創介(1年福岡) 円盤投、 清水陸功(1年岡崎南) 砲丸投、池上陽菜子(3年朝日丘) 100m・200m、 向井咲希(3年安城南) 400mH、大塚美桜(3年矢作北) 1500m、 渡邊ひな(3年大和) 1500m・3000m、藤井くるみ(2年朝日) 400m、 樋口紗都(2年浄水) 100m・200m、山口陽麻莉(1年乙川) やり投、 永山ねね(1年竜海) 100mH、大谷空恋(1年雁が音) 走幅跳・三段跳 6月 第42回 U20 日本陸上競技選手権大会・混成競技 [全国大会] (岐阜県) 夏目純佳(3年矢作北) 女子七種競技 4位 6月 第79回全国高等学校陸上競技対校選手権大会東海地区予選会 (岐阜県) 女子総合2位 男子総合4位 インターハイ出場者(個人11名のべ13種目、リレー2種目) ※()の競技は全国大会対象外 山口暁士(3年大高) 男子砲丸投 1位・(円盤投・ハンマー投) 矢嶋紗由菜(3年桜山) 女子100mH 1位 石川大介(3年平坂) 男子走高跳 1位・(三段跳) 夏目純佳(3年矢作北) 女子七種競技 1位・(走高跳・三段跳) 杉浦丞真(3年西尾東部) 男子やり投 2位・男子八種競技 4位 権田颯志(3年翔南) 男子110mH 3位 片桐舞(3年大高) 女子砲丸投 3位・円盤投 4位 八木花絵(2年大高) 女子ハンマー投 2位・(砲丸投) 松本実々(1年安城南) 女子400m 4位 杉浦崇義(2年六ツ美) 男子400mH 5位 近藤羽留(2年滝ノ水) 女子砲丸投 5位 女子4x400mR 2位 ①矢嶋紗由菜(3年桜山) ②池上陽菜子(3年朝日丘) ③奥山莉奈(3年東山) ④松本実々(1年安城南) 男子4x400mR 4位 ①瀬戸涼平(2年篠目) ②杉浦崇義(2年六ツ美) ③大嶋友博(3年大府) ④内藤樹(3年扇台) その他東海大会出場者 内藤樹(3年扇台) 400m、奥山莉奈(3年東山) 400mH、 村田真優(2年前林) 400mH、男子 4x100mR、女子 4x100mR	

女子バスケットボール部

4月	第80回愛知県高等学校総合体育大会西三河支部予選会	優勝
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会	4位

男子バスケットボール部

5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会	6位
----	-------------------	----

卓球部

4月	第80回愛知県高等学校総合体育大会西三河予選 女子学校対抗 女子シングルス 新美菜(3年竜神) 女子ダブルス 新美菜(3年竜神)・石川葵(3年桜井) 予選参加13名全員県大会へ通過	優勝 優勝 優勝
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会 女子学校対抗 女子シングルス 4名 女子ダブルス 3組	4位 ベスト32 ベスト16
5月	第55回後藤杯卓球選手権大会愛知県予選会 予選通過者 女子ダブルス 伊藤(3年城北)・大谷(3年西端)組、 渡谷(2年豊川東部)・中村(2年矢作北)組、 鈴木(1年未野原)・大澤(1年有松)組 女子ジュニア 鈴木彩楓(1年未野原)	
6月	第78回中部日本卓球選手権大会愛知県予選 推薦者・予選通過者 女子シングルス 石川葵(3年桜井)・新美菜(3年竜神)・伊藤瑞南(3年城北)・ 矢野沙樹(3年前林)・大谷桃香(3年西端) 女子ジュニア 三井桃香(2年明祥)・金子由愛(2年幸田南部)・ 渡谷南帆(2年豊川東部)・鈴木彩楓(1年未野原)・有田美雨(1年竜神)	

アーチェリー部

4月	春季アーチェリー大会 女子団体の部 女子個人の部 三田愛梨(3年形原) 河田野杏(3年明南)、佐野公香(3年刈谷南)、山口莉采(3年一色)、 牧野伶南(3年吉良)、杉浦 美歩(2年安祥)、小嶋 竜生(2年桜井) の合計7名が県大会出場	総合2位 5位入賞
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会 女子団体の部 河田野杏(3年明南)、佐野公香(3年刈谷南)、三田愛梨(3年形原)、 山口莉采(3年一色)、牧野伶南(3年吉良) の5名が東海大会出場	総合2位
6月	第73回東海高等学校総合体育大会アーチェリー競技 女子団体の部 佐野公香(3年刈谷南)、三田愛梨(3年形原)、山口莉采(3年一色)、 河田野杏(3年明南)、牧野伶南(3年吉良)	総合6位

ソフトボール部

4月	第80回愛知県高等学校総合体育大会西三河予選	3位
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会	ベスト16 (2回戦)

ハンドボール部

2月	第64回三河東西対抗総合ハンドボール選手権大会 U17女子2部	優勝
3月	第55回碧海高校生ハンドボール大会	優勝
4月	第80回愛知県高等学校総合体育大会西三河支部予選会	3位
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会	ベスト16

バレーボール部

2月	令和7年度愛知県高等学校新人体育大会	ベスト16
2月	第31回東海私立高等学校男女バレーボール選手権大会東海予選会	予選リーグ3位
3月	第49回全三河中学・高校東西対抗バレーボール大会	ベスト8
4月	第80回愛知県高等学校総合体育大会西三河支部予選会	優勝
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会	出場

女子硬式テニス部

4月	第80回愛知県高等学校総合体育大会西三河予選 女子シングルス 榎原 若菜(3年栄)	ブロック優勝
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会 女子シングルス 榎原 若菜(3年栄)	出場

バドミントン部

4月	第80回愛知県高等学校総合体育大会全三河支部予選会 学校対抗戦 男子 女子 ダブルス女子 藤井詩(3年大高)・中澤彩乃(1年長久手南)組 シングルス女子 藤井詩(3年大高) 中澤彩乃(1年長久手南)	第4位 第3位 第3位 準優勝 ベスト8
5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会 学校対抗戦 男子 女子 ダブルス女子 藤井詩(3年大高)・中澤彩乃(1年長久手南)組 シングルス女子 藤井詩(3年大高) 中澤彩乃(1年長久手南)	ベスト16 ベスト8 ベスト8 ベスト16 出場

女子サッカー部

5月	第80回愛知県高等学校総合体育大会	ベスト8
----	-------------------	------

吹奏楽部

2月	中部日本個人重奏コンテスト西三河南支部大会 重奏の部 木管八重奏・金管八重奏・打楽器五重奏 バリチューバ四重奏 個人の部 チューバ独奏 杉山力カ(2年安城西) チューバ独奏 鶴田悠斗(3年未野原) 弦バス独奏 糸長佑月(2年朝日)	金賞・代表 金賞 銀賞 銀賞 銀賞
2月	東海アンサンブルコンテスト(長野県) 打楽器七重奏 金管八重奏	金賞・代表 金賞 金賞
3月	第49回全日本アンサンブルコンテスト(広島県)	
3月	第38回中部日本個人重奏コンテスト 愛知県大会 重奏の部 木管八重奏・金管八重奏・打楽器五重奏	金賞・代表
3月	第38回中部日本個人重奏コンテスト 本大会(滋賀県) 重奏の部 金管八重奏	金賞・ 中日新聞社賞 (1位) 金賞
	木管八重奏・打楽器五重奏	

Anjo Gakuen Highschool Newsletter 彩雲
Ayagumo

2026
vol.136
発行日/7月10日



祝!!新入生入学

Contents

2	巻頭言
3-5	2026年度 1年学年会特集
6-8	探究
9	生徒会合宿
10	教科セミナー
11	国際交流
12-15	部活動レポート

巻頭言

わたしが一番きれいだったとき

茨木のり子

わたしが一番きれいだったとき
街々はがらがら崩れていつて
とんでもないところから
青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき
まわりの人達が沢山死んだ
工場て 海で 名もない島で
わたしはおしゃれのきつかけを落してしまった

わたしが一番きれいだったとき
だれもやさしい贈物を捧げてはくれなかった
男たちは拳手の礼しか知らなくて
きれいな眼差だけを残し皆発っていった

わたしが一番きれいだったとき
わたしの国は戦争で負けた

(詩の第三連までと第五連の二行を抜粋した)



のり子が「一番きれいだったとき」

上記の詩「わたしが一番きれいだったとき」は、もう41年も前、私が初めて高校の教壇に立った年に、2年生の国語の授業で教えた詩です。作者の茨木のり子は2026年6月12日に生誕100年を迎えました。生まれたのは1926年、大正15年です。この年に元号が「昭和」と改められましたので、彼女の数え年は昭和の年と同じです。そして数えの二十歳の昭和20年8月にこの国は戦争で負けました。

詩「わたしが一番きれいだったとき」の中で最も印象的な場面は、第3連の後半にある「男たちは拳手の礼しか知らなくて きれいな眼差だけを残し皆発っていった」でした。多くの人の戦争の悲しみを象徴するような美しいフレーズで、私は「とてもよくできた創作表現。だと思っていました。ところがその後、西尾時代の茨木のり子のことを調べていくと、次のことがわかってきました。高女3年だった昭和15年7月に、のり子は教員が出征する姿を見送っていました。彼女の一学年下の方から聞き取りをした話では「先生が出征される時、みんなでお見送りしました。男の人はみんな拳手の礼をして行かれました。詩の通りです」と伺いました。上記の詩と同じ場面が西尾高女で実際にあった、というのです。これには私も驚きました。しかも調べていくと、その時出征したのは、のり子の2年生の担任の先生でした。その事実を踏まえると「茨木のり子の高女3年の原体験が、詩に投影されていると解釈するのは可能ではないか」と考えるようになりました。

そんな原体験の一つ一つを10の詩と重ね合わせて、のり子の成長物語として著したのが、拙著『詩人茨木のり子の誕生 西尾の少女の物語』です。本は3月末に刊行され、中日新聞・読売新聞・朝日新聞・中部経済新聞やケーブルテレビのKATCH、そしてYahoo!ニュースでも扱ってくれました。

その拙著の95ページから引用します。「すてきな詩を読み味わうことは、人間の情緒を豊かに育て、読み手をより深い生き方へと導いてくれます。」 茨木のり子の詩は、感受性の豊かな高校生にも、またすてきな大人たちにもお勧めしたいです。



安城学園高等学校
校長 熊谷 誠人

挑戦の物語が始まる

～仲間とともに成長する2026年度1年生～

2026年度の1年生は、
「挑戦に熱中し、仲間とともに成長する学年」
を目標にスタートしました。



今年度の入学生は例年より100名以上多く、会場いっぱいに広がる新入生の姿は圧巻でした。入学式当日、生徒たちの表情からは高校生活への期待と同時に、新しい環境への不安も感じられました。しかし私たちは、この人数の多さを「出会える仲間の多さ」と前向きに捉えています。

高校生活は一人で過ごすものではありません。多くの仲間と出会い、ともに学び、ともに挑戦する3年間です。その第一歩として、入学後には新入生歓迎会が行われました。先輩たちから部活動や学校生活について紹介を受け、生徒たちはこれから始まる高校生活を具体的にイメージすることができました。また、新入生歓迎会は市民会館ホールで行われる学校行事のスタートでもあり、生徒たちにとって安城学園の一員になったことを実感する機会となりました。



挑戦の物語が始まる

さらに4月にはフレッシュマンキャンプを実施しました。阿南少年自然の家(長野県)と岐阜市少年自然の家(岐阜県)を会場に、全18クラスを6パートに分けて実施しました。各クラス1台のバスで移動し、レクリエーションや討議、野外炊飯など様々な活動を行いました。



特に印象的だったのは、各クラスに2名ずつ配置された3年生アシスタントの存在です。先輩たちは自身の経験を語りながら、生徒たちの活動を支えてくれました。その姿は1年生にとって身近な目標となり、「自分たちも3年後にはこうなりたい」という思いを抱くきっかけになりました。

クラスでは討議を重ねながらクラス目標を決定し、仲間との関係づくりを進めました。学年として大切にしている「仲間づくり」の土台は、このフレッシュマンキャンプで築かれたと言っても過言ではありません。



フレッシュマンキャンプで深めたクラスの絆を、今度は学年全体へと広げるために実施したのが第1回学年レク「リング・チャレンジ」です。

リング・チャレンジは、一人ひとりが異なる情報を持ち寄り、それらを共有しながらクラス全員で一つの輪を完成させるゲームです。フレッシュマンキャンプで練習を行い、その成果を学年レク本番でクラス対抗戦として競いました。



最初は情報共有に苦戦していたクラスも、作戦を考え、役割を工夫しながら何度も挑戦を重ねました。フレッシュマンキャンプでは完成まで約6分かかっていたクラスが、本番では3分台で完成させるなど、大きな成長も見られました。

何より印象的だったのは、クラス全員が情報を持ち寄り、一人も欠けることなく輪を完成させようとする姿でした。仲間と協力することの大切さを実感できる活動となり、優勝した16組には学年之印を押した賞状が贈られました。

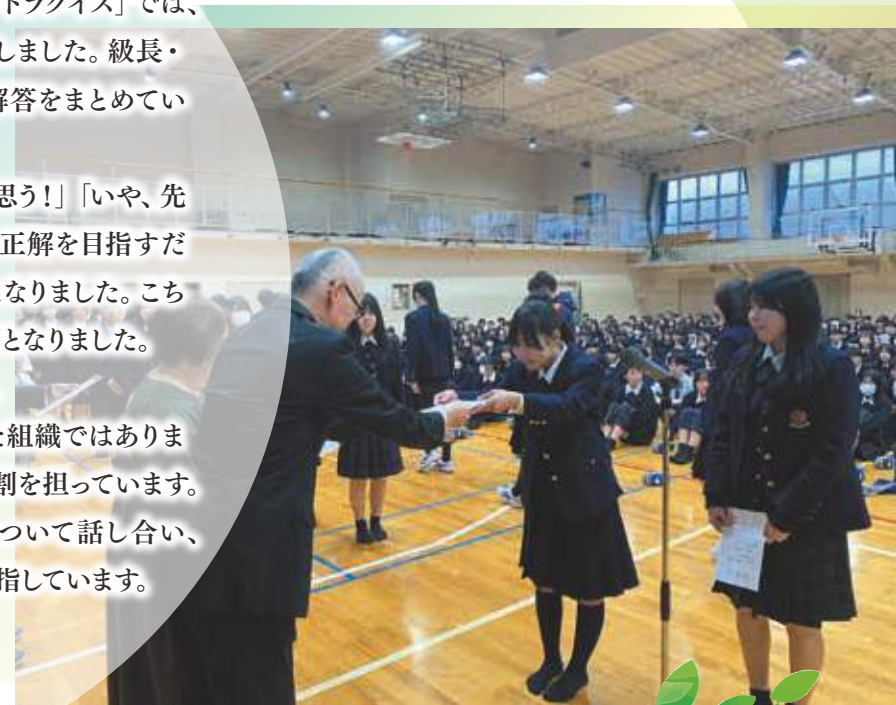


挑戦の物語が始まる

続いて実施した第2回学年レク「担任団紹介ウルトラクイズ」では、学年の先生たちに関する二択クイズ全28問に挑戦しました。級長・副級長を中心に、クラスで意見を出し合いながら解答をまとめていきます。

どの教室でも活発な議論が行われ、「こっちだと思う!」「いや、先生なら絶対こっちだ!」という声飛び交いました。正解を目指すだけでなく、クラス全体で考える楽しさを感じる時間となりました。こちらも優勝は16組。リング・チャレンジに続いての連覇となりました。こうした学年活動を支えているのが、代表者会です。

代表者会は、単に学年の中心となる生徒を集めた組織ではありません。クラスと学年をつなぐ「パイプ役」としての役割を担っています。各クラスの様子を共有し、学年レクや学年企画について話し合い、生徒たち自身の手で学年をより良くしていくことを目指しています。



現在は企画部・広報部・総務部の3部署に分かれ、それぞれが役割を持って活動しています。学年レクの企画や運営、写真ボードの制作、記録や撮影など、生徒主体の活動が少しずつ形になり始めています。

また現在は、安城七夕まつりに向けた第3回学年レク「くす玉コンテスト」にも取り組んでいます。例年行われているくす玉制作を学年レクとして位置付け、各クラスが工夫を凝らした作品づくりを進めています。



このコンテストは優勝を決めることだけが目的ではありません。クラスで考え、作り上げた作品を学年全体で共有し、お互いの良さを認め合う機会にしたいと考えています。生徒による投票も予定しており、クラスの枠を超えて学年全体のつながりを広げていくことを目指しています。

入学から約2か月。生徒たちは少しずつ高校生活に慣れ、新しい仲間との関係を築きながら歩みを進めています。

私たちが目指しているのは、ただ仲の良い学年ではありません。

仲間を大切にしながら、一人ひとりが挑戦の物語を紡いでいく学年です。

これからも生徒たちの挑戦を支えながら、仲間とともに成長できる学年づくりを進めていきます。



探究の実践を通して『家庭と社会に温かい心と新しい息吹を与えることのできる人間の育成』(建学の精神)を目指しています

建学の精神

東北／防災
[1年]

地域
[2年]

進路
[3年]

- 3年生 ● 2年生で取り組んだ探究活動をまとめ、講師の方へ発表し、丁寧な助言をいただきました。今回の発表をきっかけに進路実現へつなげていきます。



anqora大変身作戦

3年5組 藪谷 奈(東山)

2年生の探究では、安城学園近くのうさぎモチーフのカフェがかわいいのに外観が控えて見つけにくいことに関心を持ち、「もっと多くの人を知ってもらいたい」という思いからプロジェクトを始めました。活動では、発想力と企画力を大きく伸ばすことができました。今回、外部講師への発表では、聞き手を惹きつけるスライドづくりに力を入れ、文字の大きさや強調、画像の比較など見やすさを工夫しました。台本では、スライドに載せられない内容を具体的に補い、最後まで伝えたいことが明確になるよう構成しました。また、中間発表で「女子高校生らしい視点がほしい」と助言を受け、推し活フォトスポットなどSNS拡散を意識した新しいアイデアを生み出し、視点を広げる発想力も身につきました。講師の方に「スライドは完璧」と評価され、今後は原稿の構成を頭に入れ、自分の言葉で伝わる発表を目指したいと感じました。



海洋汚染問題に関するプロジェクト

3年7組 早川 悠翔(高浜)

2年生の探究では、または食堂へのインタビューをきっかけに、地球温暖化や海洋汚染によって本来獲れるはずの地魚が獲れなくなっている現状を知り、環境問題の深刻さを実感しました。漁獲量の減少や環境悪化を少しでも抑えるために、自分たちにできる取り組みを考え、プロジェクトを進めました。活動の中で最も成長したのはコミュニケーション能力です。市役所の方のお話を聞く際には、相槌や質問を意識して相手の考えを深く理解し、仲間との話し合いでは互いの意見を尊重しながら議論を進めました。今回、外部講師の方からは、資料の説明が不足している点やインタビュー内容の具体性が弱い点を指摘され、情報を分かりやすく伝える重要性を学びました。今後は、この経験で身につけたコミュニケーション力を生かし、多様な人と協力しながら学びを深めていきたいです。

Re:VIVE~シニアに新しい輝きを~プロジェクト

3年9組 安藤 優(安城西)

2年生の探究では、普段通っている美容室で高齢者のお客さんが少ないことに疑問を持ち、「高齢者が来やすい美容室とは何か」をテーマに活動を始めました。解決策を考える中で、店のコンセプトと合わない案が出てしまうなど多くの課題に直面しましたが、講師や先生から「一つの情報に縛られず、視野を広げて考えることが大切」と助言を受け、様々な角度から情報を集め直しました。この過程で、固定観念にとらわれず多面的に考える力が身につきました。今回、講師の方からは「もっといろいろな立場の人の視点を取り入れると良い」「事例を増やすと説得力が高まる」とアドバイスをいただき、発表の改善点も明確になりました。今後は、助言いただいた内容に加え、自分の言葉で分かりやすく伝えられるように工夫し、広い視野で考える姿勢を大切にしていきたいです。



SODATEループプロジェクト

3年6組 戸田 好香(安城西)

2年生の探究では、子どもの虐待や育児放棄に関するニュースを見たことをきっかけに、保護者を支える仕組みについて考え始めました。子どもへの支援制度は多くある一方で、保護者への支援が十分に知られていないという課題に気づき、保育園訪問や職業調べを通して現状を深く理解しました。そこで、保護者同士がSNSでつながり相談し合える「SODATEループ」という案を考案しましたが、安全性や責任、運営資金など多くの課題が見つかり、話し合いを重ねながら多角的に改善を進めました。この過程で、課題発見力と多角的に考える力が身についたと感じています。今回、外部講師の方からは、プロジェクト内容だけでなく、自分の強みがより伝わる表現を工夫すると良いという助言をいただきました。今後は、言葉選びや説明の仕方を磨き、聞き手に伝わる発表を目指していきたいです。



ブルーム・セカンドライフプロジェクト

3年8組 稲垣 光咲(安城北)

2年生の探究では、デンプークで季節外れになった花が廃棄されてしまうことを知り、「もう一度新しい形にできないか」と考えたことがきっかけでした。花を石鹸やリース、ドライフラワーに加工することで廃棄量を減らし、来園者が少ない時期にもお客さんと呼び込める仕組みづくりを目指して活動を進めました。探究を通して私が身につけたのは、最後まで粘り強くやり通す力です。班の中であまりやりたがらない電話掛けを進んで担当し、言葉遣いに気をつけながら丁寧に連絡を取りました。スライドも何度も見直し、相手にとって見やすい表現を工夫しました。今回の発表では責任感や内容のつながりを評価していただきましたが、写真の大きさや声の小ささなど改善点も見つかりました。今後は、自分の強みがより伝わるように表現力を高め、相手に届く発表を目指していきたいです。



めでいうおーくプロジェクト

3年10組 美崎 梨杏(竜北)

2年生の探究では、安城厚生病院を訪問した際に、高齢者の方が院内で迷ってしまう目的地にたどり着くまで時間がかかるという課題を知り、その解決に取り組みしました。最初はスマホで案内できる3Dマップを提案しましたが、高齢者には操作が難しい、両手が塞がって危険といった意見をいただき、案を見直しました。そこで、医療スタッフのサポートも可能なAIロボットの導入を提案し、より安全で使いやすい方法を考えました。この活動を通して、相手の立場に立って課題を見直し、より良い方法を粘り強く探し続ける行動力が自分の強みだと実感しました。今回、外部講師の方からは、将来の医療にもつながる学びだと評価をいただきました。今後は、この粘り強さを生かし、看護に必要な知識を身につけ、患者さんに寄り添える看護師を目指していきたいです。



ぼてこ幸せプロジェクト

3年11組 禰宜田 康正(鶴城)

2年生の探究では、長く続く飲食店の工夫に興味を持ち、何十年も営業を続けている「ぼてこ」に取材することから活動を始めました。インタビューでは大きな課題が見つからなかったため、私たちは新しい提案として、好きな具材を自由に選べるオーダーメイドメニューを考案しました。しかし、費用面から実施が難しいと企業の方から意見をいただき、最終的にオリジナルメニューの開発へ方向転換しました。この過程で、計画を立てて調査を進める計画力、実現可能性を深く検討する追求力、意見を受けて柔軟に案を変える変化対応力、相手の立場で考える想像力を身につけることができました。発表では、変化に対応しながら計画的に進めた点を評価していただきました。今後もこの経験を生かし、より良い提案ができるよう探究心を持って取り組んでいきたいです。



- 2年生 ● キーワードのカケザンをもとに、地域で活躍する方々を招き、お話を伺いました。今後は自分たちで地域に出向き、取材し、課題解決を考えていきます。



講座キーワード：医療、福祉、子ども、訪問看護、リハビリ

2年6組 三間 蒼空(篠目)

講師の方のお話で印象に残ったのは、学生時代の部活動での怪我がきっかけとなり、目の前で困っている人を助けることにやりがいを感じるようになったという点です。自分の経験を他者への思いやりにつなげ、行動に移していった姿勢に強く尊敬の気持ちを抱きました。私は怪我をしたとき、自分のことで精一杯で周囲に気を配る余裕がありませんでしたが、講師の方はその状況でも周りの人を気遣い、支えようとしていたことに心を動かされました。この話を聞き、困っている人に気づける視点や、行動に移す勇気の大切さを学びました。これからの高校生活では、自分のことだけでなく周囲にも目を向け、部活動や学校行事でも積極的に行動し、誰かの力になれる存在を目指していきたいと感じました。

講座キーワード：車いす、アジアの障害児、国際協力NGO

2年8組 網田 芽沙(刈谷南)

西村さんのお話で特に印象に残ったのは、車椅子を届けるだけでは支援にならず、まず生活環境を整える必要があるという点です。リジャルくんの家にはトイレや水浴びなど、日本では当たり前の設備がなく、車椅子があっても日常生活が成り立たない状況に驚きました。支援とは「物を渡すこと」ではなく、「その人が安心して暮らせる環境をつくること」であると気づきました。また、西村さんが語った「高校生である価値」と「情報発信」という言葉が心に残りました。高校生活は限られた時間であり、授業以外にも学べる機会が多くあります。残りの高校生活では、イベントや探究活動に積極的に参加し、興味の幅を広げながら多様な視点で考えられるよう成長していきたいと思いました。

講座キーワード：ものづくり、ものを大切に、社員の安全と幸せ

2年11組 大津 優磨(大府西)

社会人講座で印象に残ったのは、ものづくりには技術だけでなく、人とのコミュニケーションや最後まで仕事をやり抜く責任感が欠かせないというお話です。ものづくりは機械や作業が中心だと思っていましたが、実際には自分で考える力や周囲との協力があってこそ成り立つ仕事だと気づきました。講師の方が、仲間と意見を交わしながらより良い製品をつくり上げていく姿勢を語ってください、人と関わることの大切さを改めて感じました。今後の高校生活では、学校行事や部活動で積極的に挑戦し、友達や先生とのコミュニケーションを大切にしながら、さまざまな活動に取り組んでいきたいです。協力し合う姿勢や責任感を身につけ、自分の成長につなげていきたいと思いました。

OIL ZEROプロジェクト

3年12組 原田 彩百(大府)

2年生の探究では、たこ焼き屋Kuuuさんへのインタビューをきっかけに、飲食店が抱える課題を考える活動を進めました。話を聞く中で油污の問題に着目し、グループで課題解決に向けた提案を検討しました。活動の中で私が最も成長したのは、全ての行動から学ぶ力です。初回の発表では講師の方から多くの指摘を受けましたが、そのアドバイスをすぐに実践し、次の発表では改善点をすべて反映させることができました。その結果、「企業に提案しても良いレベル」と評価していただき、大きな自信につながりました。また、丁寧な話し方を褒めていただき、より具体的な説明やスライドの見やすさを工夫する重要性も学びました。今後は、自分の強みである落ち着いた表現を生かし、伝わる発表を目指して成長を続けていきたいです。



講座キーワード：起業、性教育、思春期保険相談

2年7組 天野 愛姫(桜井)

渋谷さんのお話で印象に残ったのは、「無知だったからこそ挑戦できた」という言葉と、思いついたアイデアをすぐ行動に移す姿勢です。娘さんのために安心して使える生理用品を探す中で、海外製品を知り、日本で扱えなかった経験をきっかけに「自分で作る」と決意し、三年かけて吸収サニタリーショーツを完成させたという話に強く心を動かされました。試作段階では娘さんの意見を取り入れ、素材や色にもこだわり、完成品は学校への寄付や講座にも活用されています。また、性教育を楽しく学べる参加型講座を開き、親子が安心して学べる場をつくっていることも印象的でした。渋谷さんは常にポジティブで、アイデアをメモし続ける習慣が新しい挑戦につながっていると感じました。私も「やってみたい」を大切に、失敗を恐れず行動し、周りの人の役に立てるような力を高校生活で身につけたいと思いました。

講座キーワード：ものづくり、ライター、世界

2年9組 小林 蓮佳(翔南)

潤子さんのお話で印象に残ったのは、「今できないことややりたくないことでも、一度やってみればできるかもしれない」という言葉です。できることだけを見るのではなく、本当に無理なことだけを縛り、まず挑戦してみる姿勢が大切だと感じました。また、潤子さんが「後悔はあまりない。失敗しても、その後の対応を学ぶ経験になる」と語っていたことも心に残りました。私は挑戦する前に諦めてしまうことが多いですが、この考え方なら自分の可能性を広げられると思いました。これからの高校生活では、勉強や部活動、行事などで未経験のことにも積極的に挑戦し、失敗しても落ち込みすぎず次に生かす姿勢を大切にしたいです。挑戦と学びを重ねながら、自分の成長につなげていきたいと感じました。

講座キーワード：出張助産院、保健師、産後ケア

2年12組 神谷 真帆(安城西)

牧野さんのお話で印象に残ったのは、「正解を教えるのではなく、一緒に考える」という姿勢です。訪問助産師として、同じ内容を一方的に伝えるのではなく、相手一人ひとりに寄り添い、その人にとって最も安心できる答えを共に導き出すことを大切にしていると知り、深く心に残りました。もし自分が同じ立場なら、似た質問には同じ返答をしてしまうと思いますが、牧野さんは相手の状況に合わせて考えることを優先しており、その姿勢がとても素敵だと感じました。また、私の将来の夢にも関わる内容で、「こんな人になりたい」と強く思いました。さらに、牧野さんは迷ったときこそ行動することを大切にしていると話されていました。私は困ったときに立ち止まってしまうことが多いので、これからの高校生活では、悩んだ時でも前に進む努力を続け、訪れたチャンスをつかめる自分になりたいと思いました。

生徒会合宿

生徒会長 3年3組 松川 莉子(安祥)

生徒会合宿は生徒会役員、代議員の各常任委員長、各学年代表者会執行部、学園祭実行委員の局長・チーフ候補など学校の中心となって活動する生徒が集まり、今年度の安城学園をどのように運営していくかについて討議を行う1泊2日の合宿です。

「討議」と聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、実際には「学校に制服は必要か」「学園祭をもっと盛り上げるにはどうしたらいいか」「地域の特産品を紹介しよう」など、身近なテーマについて班ごとに意見を出し合うことから始めます。そしてある程度慣れてきてから、「リーダー論」であったり、「学園祭テーマ」など難しい討議に挑戦していきます。

討議では様々なテーマがありましたが、私の班では「リーダー論」をテーマに討議を行いました。まず、「理想のリーダー像」について一人ひとりが考え、紙に書き出しました。その後、卒業生3名をお招きし、「リーダーとしてこだわって必ずやったこと・逆に絶対にやらなかったこと」についてお話をいただきました。その話を受けて具体的に「自分がリーダーになったらどんな存在になりたいか」をそれぞれが考えました。すると、「自分の持ち味を活かせるリーダーになりたい」「みんなの良さを引き出せるリーダーになりたい」など、それぞれの個性があらわれる意見がたくさん出ました。

リーダーには色々な形があるから答えは1つではないと実感し、リーダーとしての重圧が少し軽くなった気がしました。同じ「リーダー」でも考え方や目指す姿は人それぞれです。まったく自分とは違う個性を持った仲間と意見を交わし、新しい考え方に触れることができ、とても有意義で楽しい時間となりました。

生徒会合宿は自分の考えを深めるだけでなく、新しい仲間や考え方に会える貴重な機会です。討議だけでなく討議の合間に入れたレクリエーションも全力で楽しんだとても充実した2日間となりました。



東北から学ぶ講座A 建学の精神×東北で活躍する方

A-1 映像×まちづくり 気仙沼ベイスン コロナをきっかけに移住し、地域の魅力を発信	A-2 食×ブランディング さとうみファーム 金藤克也さん 震災をきっかけに移住し、米穀類のひづり製菓から地域に新しい価値を創出	A-3 デザイン×環境 YES工房 大森文広さん 震災をきっかけに地元へ移住し、アウトバス道をデザインし、地域創生を目指す
B-1 観光×観光 民子の海バック 阿部民子さん 震災をきっかけに未経験で女性の職につくり地域活性化に貢献する	B-2 こども×教育 マリンバル保育園 小野寺ひとみさん 深刻な少子高齢化の東北で震災に合い、こども1人1人に寄り添い、貢献する	B-3 福祉×健康 社会福祉協議会のみなさん 震災で備った地域住民の声を聴き、形にする活動に転換

海バック

1年6組 大木 亜海(明祥)

震災後、普段の生活に戻るまで長い時間がかかったというお話から、日頃の備えの大切さを強く感じました。また、復興は多くの人が支え合いながら進められたと聞き、地域の温かさに心を動かされました。学びを何に生かすか考える姿勢も印象に残りました。南海トラフ地震が心配される今、避難所の確認や防災の準備を見直したいと思いました。高校生活では、当たり前の毎日を大切に、積極的に行動しながら人とのつながりを深めていきたいと感じました。

1年12組 石川 絢一郎(安城南)

災害は生活の被害だけでなく、強い不安や恐怖が心に残り、震災後もすぐに日常へ戻れないというお話が印象に残りました。だからこそ地域で支え合い、協力しながら復興を進めることが大切だと感じました。農業を通じて地域を活性化しようと行動している姿にも心を動かされました。実際の体験談はニュース以上に重く、当たり前の生活が決して当たり前ではないと気づきました。高校生活では防災への備えを見直し、人とのつながりを大切にしながら、日々を貴重に過ごしたいと思いました。

1年1組 ジェノビサ サンデル(碧南南)

阿部さんが活動を続けたのは、地域の人とのつながりや家族の支えがあったからだというお話が印象に残りました。近所の方が津波に飲み込まれる光景を目にしたしながらも、「町の笑顔を取り戻したい」と強い思いで行動し続けた姿に心を打たれました。つらい経験を力に変え、前向きに歩む姿勢から、人は困難を乗り越えて成長できることを学びました。高校生活では悔しさや努力を糧に挑戦を重ね、行事や活動で積極的に関わりながら、感謝の気持ちを大切にしていきたいと感じました。

1年16組 青木 心花(矢作北)

阿部民子さんのお話で印象に残ったのは、震災をきっかけに漁業の在り方を見直し、競争から協力へと転換したという点です。「ピンチはチャンス」という言葉どおり、困難を前向きな変化につなげた姿勢に心を動かされました。また、新しい商品づくりや販売方法への挑戦から、学び続けることの大切さを感じました。高校生活では一日一日を大切に、周囲とのつながりを意識しながら挑戦を重ね、将来に生かしていきたいと思いました。

1年11組 瀬古 実夢(安城南)

震災後、園児が8人しかいない状況でも保育園を開き続け、子どもたちの安心と成長を守り続けた小野寺さんのお話が印象に残りました。困難の中でも前向きに支援を続けた姿勢に心を動かされました。「辛いことを乗り越えた先には必ず良いことがある」という言葉を聞き、苦手なことにも少しずつ向き合おうと思いました。高校生活では、やらない後悔より挑戦を大切に、人とのつながりを意識しながら行事や部活動に積極的に取り組み、成長していきたいと感じました。

1年14組 中村 礼(安城北)

震災直後、園児を抱えて避難しながら食料や着替えを準備し、自身の命も守らなければならない状況の中で、子どもたちと接すると自然と笑顔になったという小野寺さんのお話が印象に残りました。強い責任感と子どもへの思いに心を動かされました。保育は子どもが安心して過ごせる環境をつくることだと気づきました。高校生活では、得意・苦手に関わらず物事に向き合い、人との関わりを大切に、後悔より挑戦を選ぶ姿勢を大事にしていきたいと感じました。

1年1生

東日本大震災から15年つながり続けた東北。急激な少子高齢化に伴い、社会課題先進地となった南三陸町。災害をきっかけに立ち上がった大人とオンラインでつながり、自分たちは何ができるかを考えるきっかけになりました。



1年8組 玉井 里奈(大府)

講師の方が、震災当日に殉職した父の思いを受けて社会福祉協議会に入職し、24歳で主任として仮設住宅を毎日訪問していたというお話が印象に残りました。「あなた家あるの」と言われ続ける中でも被災者のために通い続けた強さに心を動かされました。言葉が人を傷つけることがあると気づき、高校生活では周囲への配慮を大切にしながら、学びやボランティアにも積極的に取り組み、現地の声を自分の成長につなげていきたいと感じました。

1年4組 梅村 怜花(六ツ美北)

大森さんは、スヌーピーやミッフィーのデザインを担当していた経験を生かし、YES工房でも運営方針や製品づくりに携わり、次の世代のための環境整備や若い人の雇用にも力を入れていると知り印象に残りました。復興のシンボルであるオクトパス君が海外にもファンを持つことに驚き、その魅力を広げたいという思いに共感しました。「きっかけは人それぞれ」という言葉を受け、高校生活では自分にできることを探し、困っている人の力になれる行動を大切にしたいと感じました。

1年5組 大山 夢依(依佐美)

YES工房の大森さんは震災後、仕事の目的を見失い悩んだ時期から二つの大きな目標を見出し、再び前向きに働けるようになったという話が印象に残りました。仕事のやりがいやモチベーションの大切さを改めて感じ、自分の好きなことを職にする難しさや魅力を学びました。きっかけは人それぞれという言葉を受け、高校生活では焦らず多くの経験を重ね、夢に近づきたいと思いました。また、周囲の温かい言葉を励みに毎日を前向きに過ごしたいと感じました。

1年9組 小澤 輝(前林)

町づくりに関わる中で感じた思いや、代表となったことで仕事へのモチベーションが高まったというお話が印象に残りました。大森さんの経験は、私自身が代表者会の一員として学年づくりに関わる立場と重なる部分があり共感しました。高校生活では、学年をよりよくするために多くの選択や挑戦を経験として積み重ねたいです。また、行事や活動では率先して行動し、周囲と協力しながら成長していきたいと感じました。

1年7組 内藤 緒美(新津)

講師のベイスさんは、芸人の夢を叶えた後にコロナ禍で活動が難しくなり、得意な料理を生かす仕事を見つけて気仙沼へ移住された行動力が印象的でした。移住後も地元番組やトークライブで街を明るくしている姿に心に残りました。特に、震災後に活気を失った地域のためにYouTubeを始め、誰の役に立つかを考えながら発信している姿勢に強く惹かれました。高校生活では自分だけでなく周囲にも目を向け、誰かのために行動できる人になりたいと感じました。

1年15組 諸隈 千佳(川名)

YouTubeで地域の魅力を発信し続けることの大変さや、芸人としての人脈や話しやすさを生かして気仙沼を広めたいという思いが印象に残りました。多くの人が発信する中で、地域との信頼を築きながら活動する姿勢に心を動かされました。挑戦を恐れず人とのつながりを広げる大切さにも気づきました。高校生活では、自分から興味のあることに踏み出し、体験を重ねながら周囲との交流を深めていきたいと感じました。

1年10組 白井 恵愛(明祥)

震災直後に起きた課題を次々とプラスに転換し、わかめ羊の誕生へとつなげた金藤さんのお話が印象に残りました。塩害や廃棄物などの問題を組み合わせ、地域の特性を生かして新しい価値を生み出した姿勢に感動しました。デメリットをメリットへ変える発想や「誰かのため」に挑戦する姿勢から多くを学びました。高校生活では、部活動でも周囲の課題を広く見渡し、丁寧に行動しながら前向きに挑戦し続けたいと感じました。

1年13組 川末 歩実(刈谷南)

羊は一年に数匹しか産まれないと知り驚きました。その中で、さとうみファームの金藤さんが美味しい羊を育てるために工夫を重ね、わかめを食べさせた羊を生み出した努力に強く心を動かされました。諦めずに新しい方法を試し続けた姿勢から、挑戦することの大切さを学びました。高校生活では、できないと思うことにも前向きに取り組み、新しいことに目を向けながら成長していきたいと感じました。

教科セミナー報告 Workshop Report



普通科2年6組 小山 優里(蒲郡中部)

理科
セミナー

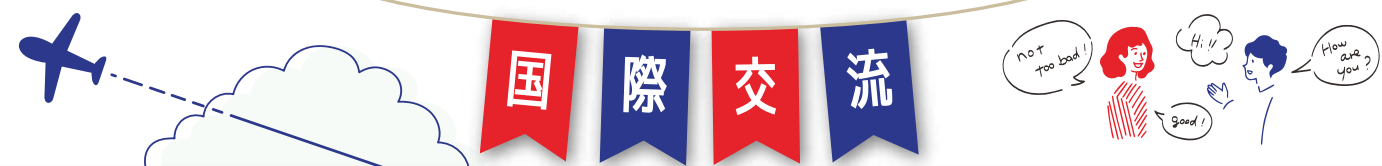
理科セミナーでは、さまざまな体験を通して、同じ趣味や興味を持つ仲間と交流できたことがとても楽しかったです。私と友達2人で参加しましたが、他の参加者と話す機会も多く、最終的には学年を越えてたくさんの友達を作ることができました。充実感のある2日間を過ごせて、とても満足しています。

私は星や化石が好きだったため、どの体験も楽しみにしていました。1日目の夜に予定されていた天体観測は雨のため中止になってしまいましたが、その代わりにプラネタリウム鑑賞とフォーク作り体験を行う

ことができました。プラネタリウムに行くのは初めてだったので、普段とは違う星の見え方にとってもワクワクしました。

また、ものづくりも好きな私にとって、フォーク作り体験も印象に残っています。作業をしていると中学校の技術の授業を思い出し、どこか懐かしい気持ちになりました。

今回、セミナー形式の活動に参加するのは初めてでしたが、普段の旅とは違い、興味のあることを学びながら仲間と交流できる楽しさがあり、とても充実した時間になりました。この経験を通して、他のセミナーにもぜひ参加してみたいと思いました。



🇨🇦 キャピラノ大学より特別講演

総合的な探究活動 坂本 陽香



愛知学泉大学の姉妹提携を結んでいるカナダのキャピラノ大学よりErin先生を講師にお迎えし、総合的な探究の時間にて「文化のモザイク」および「先住民文化」をテーマとした特別講演を開催しました。講演では多文化への理解を深める講義が行われ、続くワークショップでは学びを形にする実践的な体験として「アートタイル制作」に取り組みました。生徒たちは熱心に参加し、多角的な学びを得ることができ、非常に有意義で実り多いイベントとなりました。

🌍 多文化共生についての特別講演

国際交流主任 杉浦 竜也

伊木ロドリゴ先生を講師にお迎えし、多文化共生社会をテーマとした特別講座を実施しました。本講座は、海外にルーツを持つ生徒や帰国子女が多く在籍する英語コースの環境を踏まえ、生徒たちが国や文化の違いを越えて「人」として支え合う心構えを学ぶ目的で行われました。生徒一人ひとりが自身の在り方や今後の行動を深く考えるきっかけとなり、課題探究の第一歩となる有意義な時間となりました。



🇪🇪 ESTONIA SEMINAR

国際交流 Simon Kew



On Thursday, June 12th, 2026, Henri Kruusimägi, the exchange student at Anjo Gakuen H.S., gave a seminar to about 50 students in the school International Club. He talked about the geography, food, nature and people of his country, Estonia. Students showed a keen interest in his words and eagerly asked many questions. Afterwards, he shared some typical rye-bread cracker souvenirs with students, who enjoyed the taste.

留学生受け入れ

クルウシマギ ヘンリ

私はヘンリです。エストニアから日本にきました。日本の文化と日本語が勉強したいです。安城学園の生活がとても楽しいです。先生たちが親切で面白いです。学生たちもやさしくて助けてくれます。もっと日本語で話せるようになりたいです。



部活動Report

2026年2月～2026年6月

ケガからの復活！100mH制覇の主将が チームを導き東海女子総合準優勝！ 全国の舞台へ

3年10組 矢嶋 紗由菜(桜山)

高校最後の東海総体で、個人100mH優勝、マイルリレー2位でインターハイを決め、チームは女子総合2位に輝きました。私は、昨年の高校2年生は怪我で思うように記録を伸ばせず悔しい思いをしました。キャプテンとしてみんなにいい所を見せる為にもひと冬、必死に練習を頑張ってきたことが個人種目にもリレーにもつながりました。女子マイルリレーは去年は0.1秒差で7位となりインターハイに進めなかった悔しい結果から、今年の2位という素晴らしい結果です。滋賀県で行われるインターハイでは自分を信じて楽しみ100mHでは必ず入賞、マイルリレーでは陸上部初入賞を目指して頑張ります。応援よろしくお願いします。



8位からの大逆転！ 自己ベストで証明した 1年間の成長と意地

2年13組 近藤 羽留(滝ノ水)



6月に行われた東海総体で5位入賞をし、インターハイを決めることができました。6位までがインターハイ出場できる権利の中、途中8位の苦しい場面もありましたが、仲間の応援もあり、「自分ならできる」と諦めずに信じました。5投目で自己ベスト

を投げ、一気に順位を上げインターハイを決めることができました。昨年は8位で悔しかった時は違い、意地を見せることができたことに、自分の成長を感じました。自分の投げで見ている方々を歓喜させられることができて良かったです。また、入賞できたのは支えてくれる仲間や指導してくださる先生方のおかげです。インターハイでは、感謝の投げをして入賞できるように、これからも練習に取り組んでいきます。

インターハイへ2種目突破！ 個人400m&マイルリレーで夢の舞台へ！

東海総体では、個人の400mとマイルリレーで夢のインターハイへの切符を勝ち取ることができました。我が陸上競技部は、インターハイ出場・インターハイで勝負できるチームになることを目標に、選手一人一人が自立しつつも切磋琢磨し、明るい雰囲気で行く練習に取り組んでいます。顧問の先生方の指導や先輩、仲間の支えのおかげで、自分でも驚くほどの成長を遂げることができました。インターハイに行けることに満足せず、インターハイで勝負できるよう、今後も練習を積んで、自分の限界を超えていきたいです。そして、いつか必ずインターハイで表彰台に乗りたいです。

1年5組 松本 実々(安城南)



陸上競技部



マイルリレー《全身全霊の走り》 託された涙を歓喜に変えて

3年9組 内藤 樹(扇台)

昨年2年生の時、僕はマイルリレーでインターハイ出場が叶わずとても悔しい思いをしました。憧れであり、尊敬している先輩方の涙を見て自分たちの代では絶対にインターハイ出場を実現させてやると決意をし、託された想いを背負って日々の練習に打ち込みました。そして今年の東海総体では"全身全霊"を振り絞って念願のマイルリレーインターハイ出場を果たすことができました。ここまでくることができたのは、先輩の想いや、信じ続けてきた仲間がいたからこそこの結果だと感謝しています。



西三総体2冠の王者が、 仲間と挑む勝負の駅伝

3年13組 渡邊 ひな(大和)

私は西三総体で1500mと3000mの両方の種目で優勝し、2冠を達成することができました。しかし県大会では、東海大会出場まであと一歩届かず、とても悔しい結果となりました。その悔しさをバネにこれまで以上に練習に励み、さらに成長していきたいです。10月には駅伝があります。駅伝は一人では勝つことのできない競技です。チーム全員の思いを一本のたすきにつなぎ、仲間と力を合わせて戦います。県大会で味わった悔しさを力に変え、駅伝に向けて仲間と切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。本番ではチームに貢献できるよう全力を尽くし、チーム一丸となって目標達成を目指します。



ソフトボール部

感謝を胸に最後まで戦い抜く

3年4組 矢田 千尋(矢作)

私たちソフトボール部は、毎日声を掛け合いながらお互いを励まし、仲間とともに練習に励んできました。苦しいこともありましたが、支え合いながら乗り越えてきた時間は私たちの大きな力となっています。最後の大会では、これまで積み重ねてきた努力を信じ、一球一球を大切にしながら全力でプレーします。仲間とともに最高の結果を目指し、支えてくださった方々への感謝を胸に最後まで戦い抜きます。



目の前の一球に貪欲に向き合い、 勝利をつかめるチームに

2年12組 神谷 真帆(安城西)

私たちは毎日の練習の積み重ねを大切に、日々成長することを意識して活動しています。私が特に意識していることは、自分自身でも、周りから見ても「できている」と実感するまで取り組みを続けることです。チームメイトに「今のプレーどうだった？」、「ちゃんとできている？」と聞き、意見をもらうことで、さらに上達できるよう取り組んでいます。これからもチーム一丸となり、目の前の一球に貪欲に向き合い、勝利をつかめるチームを目指していきたいです。必ず今よりも成長できるように、全力で頑張ります。



合唱部

安城市歴史博物館 さとのマルシェコンサート

1年3組 岩崎 色織(明祥)

私は中学生の頃、合唱部の部活体験に来ました。とても楽しそうに歌っている先輩方の姿をみて、この部活に入りたいと思い入学しました。安城歴史博物館での演奏は、合唱部に入部して初めての演奏会。そのことを聞いた時は、ワクワクした気持ちと緊張が入り混じっていました。演奏会に向けて、たくさん練習を重ね、聞いてくださる方々に言葉が伝わるように工夫をしました。演奏会本番では、緊張ははしけれど、それよりも合唱部の仲間と一緒に歌えて楽しいという気持ちが入り混じり、とても良い経験となりました。来てくださったお客さんも楽しそうに聞いてくれていてとても嬉しかったです。



弦楽部



第38回地域交流コンサートを終えて

3年7組 長田 佑月(高浜南)

6月20日に愛知学泉大学オーケストラと安城学園高校弦楽部による「第38回地域交流コンサート」を開催しました。今年度は新たに10名の部員を迎え、日々の練習の中で音を合わせることの難しさや、仲間と1つの音楽をつくり上げる喜びを感じながら、3年生を中心に活動しています。当日は保護者の皆様をはじめ、多くの地域の方にご来場いただきました。日頃支えてくださる皆様への感謝の気持ちを音楽でお届けできるよう、部員一同心を込めて演奏しました。皆様に楽しんでいただけたことを大変嬉しく思います。今年度も全国大会出場を目標に、さらなる成長を目指して努力してまいります。今後とも応援よろしくお願いいたします。

吹奏楽部

中部日本個人・重奏コンテスト本大会において 第1位中日新聞社賞と滋賀県教育委員会賞を受賞

3年9組 豊田 奈央(犬山東部)

3月29日(日)に滋賀県ひこね市文化プラザで行われた中部日本個人・重奏コンテスト本大会において愛知県代表として、金管八重奏、木管八重奏、打楽器五重奏が出場し、金賞を受賞しました。また、金管八重奏は1位となる「中日新聞社賞」と「滋賀県教育委員会賞」を受賞しました。1、2年生のみで出場する初めての大会で苦労することも多くありましたが、たくさんの方々に支えてもらい、最後まで頑張ることができました。そしてこのような結果を頂けたことをとても嬉しく思います。日々応援してくださる方々を始め、学校の教室等を貸してくださるみなさん、指導していただく先生方、日々切磋琢磨していく仲間に感謝し、今年の夏の大会では悲願の全日本吹奏楽コンクール出場を目指し、日々努力していきます。応援よろしくお願いします。



全日本アンサンブルコンテストで 金賞

3年9組 横居 菜摘(前林)

私たち打楽器七重奏は、全日本アンサンブルコンテストに出場し、金賞を受賞することができました。練習では、曲の雰囲気や表現力を高めることに苦勞し、思うようにいかないこともありましたが、一人ひとりが課題と向き合い、意見を出し合いながら練習を重ねました。挫けそうになっても仲間と励まし合い、支え合って努力を続けた結果、全員で全国大会金賞という素晴らしい結果をつかむことができました。この経験を通して、仲間と協力することの大切さや、最後まで諦めずに挑戦することの大切さを学びました。この学びをもとに恩返しのできる気持ちを忘れず今後の練習に励んでいきたいと思います。



学びを力に、さらなる高みへ

2年4組 熊谷 萌愛(大垣東)

5月9日に行われた第5回春のコンサートでは、蒲郡フレンドシップコンサートで得た学びを生かし、より充実した演奏会にすることができました。中学生や大学生の皆さんと共演する中で、これまでとは異なる視点から音楽や演奏に向き合うことができ、多くの刺激を受ける貴重な機会となりました。今回の経験を今後の練習や学校生活にも生かし、一歩ずつ成長を重ねていきたいと思います。



新たな責任、新たな一歩



2年14組 兼久 由羽(大府) 2年14組 杉浦 堇(碧南南)

5月6日に行われた蒲郡フレンドシップコンサートは、新体制となって初めて迎えた演奏会でした。2年生となり、これまで先輩方に支えていただく立場から、後輩を導く立場へと変わったことで、改めて先輩方の存在の大きさを実感するとともに、自分たちの責任の重さを強く感じました。本番では予想外の出来事もあり、その場で臨機応変に対応する難しさを痛感しました。どのような状況でも落ち着いて柔軟に判断し、より良い演奏につなげられるよう、これからも経験を積み重ねていきたいと思います。

夢の舞台への 第一歩

1年1組 宮田 栞里(刈谷南)

入部してから約2か月。私たち1年生は、初めて1年生だけで臨む演奏会「1stステージ」を迎えました。満席となった客席を目の前にした瞬間、期待と緊張が入り混じる中、夢の舞台へと一歩を踏み出しました。開演前には、先輩方が私たちのために制作してくださった応援ムービーが上映され、温かい気持ちと大きな感動に包まれました。その想いを胸に演奏を始めると、緊張していた時間はあっという間に過ぎ、気がつけば本番は終演を迎えていました。そして、会場いっぱいに響く温かい拍手をいただいた瞬間、それまで抱えていた不安や緊張は大きな達成感と喜びへと変わりました。この舞台を経験したことで、吹奏楽部の一員としての自覚が芽生え、これからは先輩方とともにさらに成長していきたいという決意を新たにしました。これからも仲間との絆を大切にしながら、さまざまなことに挑戦し、一つ一つの経験を力に変えて、目標に向かって努力を積み重ねていきたいと思います。



音を重ね、心をつなぐ

3年5組 毛利 日向子(碧南中央)



6月14日に行われたフレンドシップコンサートでは、末野原中学校、前林中学校、京都明徳高等学校、安城プラスオルケスターの皆さんと合同演奏会を行いました。練習では、お互いに声を掛け合いながら音を合わせ、1つの目標に向かって時間を共有し、心を1つにして音楽を創り上げる大切さを実感しました。本番では、ご来場くださった皆様に音楽の楽しさが伝わるよう、1曲1曲に思いを込めて演奏することができました。この経験を今後の活動にも生かし、さらに心に響く演奏を目指して努力していきます。

名門との共演が 拓いた新たな境地

3年5組 堀内 心(矢作北)

6月20日に行われたジョイントコンサートでは、強豪校である愛知工業大学名電高等学校の皆さんと共演するという、大変貴重な機会をいただきました。普段とは異なる環境で演奏することで、多くの刺激を受け、演奏技術はもちろん、音楽に向き合う姿勢や表現力についても多くのことを学ぶことができました。また、多くのお客様にご来場いただき、部員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。今回の経験を今後の練習や演奏に生かし、さらに成長した姿をお見せできるよう、部員一同努力を重ねていきたいと思います。



部活動Report 2026年2月~2026年6月

音楽がつないだ 新たな出会い

3年3組 長野 友香(大垣東)



6月21日に開催された安城ウィンドフェスティバルでは、大府北中学校、岡崎North、浜松八幡中学校、大垣東中学校の皆さんと共演する貴重な機会をいただきました。学校ごとの音づくりや演奏への取り組み方の違いに触れ、多くの刺激を受けました。また、中学生の皆さんの瑞々しく真っ直ぐな演奏から、私たち自身も音楽を楽しむ気持ちや演奏する喜びを改めて感じることができました。音楽を通して多くの仲間と交流できたこの経験を糧に、これからも聴いてくださる方々の心に響く演奏を目指して練習に励んでいきます。

インターアクトボランティア部

あたらしい挑戦!!

1年15組 永井 洵丞(城北)



フェスのボランティアでは、子どもたちと一緒に遊び、充実した時間を過ごすことができました。こうしたイベントのボランティアでは、人とのコミュニケーション力や柔軟な対応力など、社会に出たら使うようなことがたくさん学べます。入部して2ヵ月、まだまだインターアクトボランティア部のことは勉強中ですが、自分たちが先輩になったときには、胸を張って活動できるように励んでいきます。

インターアクトボランティア部では、様々な活動を行っています。安城まちの学校と本校の共同主催の土曜講座では、子どもたちのために、カードゲーム、カラオケやキーホルダー作りなどの講座を部員が準備、運営をしています。子どもたちと直接交流することで、子どもたちや、保護者の方々の笑顔を見ることができ、自分たちも元気をもらっています!先日行われた、にっこりみっけファミリー

美術部

高文連「美術・工芸専門部」 西三河代表作品に選出!

3年3組 杉浦 琉那(鶴城)

令和8年度アートフェスター愛知県高等学校総合文化祭へ出品
8月18日(火)~8月23日(日) 愛知県美術館 ギャラリーJにて展示 入場無料

私はこの絵画で“儚さ”を強く主張しました。泡をたくさん描いて“しゅわしゅわ”としている表現は高校生活の意味も込めて描いています。一日一日を大切にするという私の考えです。手を差し伸べているところや熱帯魚、百合の花は命の温かさ、大切さを表しています。50号という大きなキャンバスで迫力と細部へのこだわりが表現でき、世界観やイメージを作品に詰め込むことが出来ました。一人でもこの作品に心惹かれてくれたら嬉しいです。美大に進学し、今後もよりよい作品が残せるよう努力していきます。



「泡沫」